

平成26年3月期
決算説明会

平成26年5月20日
戸田建設株式会社

本資料には、当社及び当社グループの将来についての計画、戦略、業績の予測に関する記述が含まれています。

これらの記述は、現時点で入手可能な情報に基づき、当社が予測したものであり、潜在的なリスクや不確実性が含まれています。

そのため、様々な要因の変化により、実際の業績または展開は、記述されているものと異なる可能性があることをご承知おきください。

本日の内容

1. 決算説明

- 管理本部長 鞠谷 祐士

2. 経営の取り組み

- 代表取締役社長 今井 雅則

1. 決算説明

管理本部長 鞠谷 祐士

1-1. 決算概要

決算のポイント

■ 連結売上高 4,489億円 (前期比▲9.7%)

： 当社及び国内子会社における完成工事高が減少したことにより、前期比9.7%減少の4,489億円となった。

■ 営業利益 47億円 (前期比+517億円)

： 前期に採算重視の受注方針への転換を行ったことや慎重な工事収益の見積りを実施したことにより完成工事総利益が向上した結果、営業利益は、47億円となった。

■ 建設受注高 (個別) 4,544億円 (前期比+34.0%)

： 建築では大型の再開発、土木では官庁の鉄道・道路の受注が増加し、前期比+34.0%となった。

決算概要

(百万円)

	25/3期	26/3期			
		H26.2.13 予測	実績	前期比	予測との差異
連結売上高	497,048	450,000	448,987	▲9.7%	▲1,013
営業利益	▲46,997	4,700	4,782	-	82
経常利益	▲45,581	6,000	6,584	-	584
純利益	▲65,285	10,000	10,228	-	228
建設受注高 (個別)	339,067	415,000	454,405	34.0%	39,405

主な受注工事

	発注者	工事名
建築	三菱地所他	大手町一丁目第3地区第一種市街地再開発
	広島駅南口Cブロック 市街地再開発組合	広島駅南口Cブロック第一種市街地再開発
	国家公務員共済組合連合会	高齢者総合サロ-トセンター・九段坂病院
	日本赤十字社	鳥取赤十字病院新病棟等増改築
	国立病院機構 九州がんセンター	九州がんセンター新築
	医療法人社団筑波記念会	筑波記念病院中央棟増築
土木	東北地方整備局	国道45号 下安家道路
	鉄道建設・運輸施設整備支援 機構 北海道新幹線建設局	北海道新幹線 立岩トンネル
	都市再生機構	H25年度山田地区外整地
	東日本高速道路	東関東自動車道 紅葉工事

※敬称略、工事名は略称

主な完成工事

発注者		工事名
建築	日揮	精神医療センター整備運営事業
	任天堂	N新社屋建設
	埼玉県	埼玉県立がんセンター新病院
	森トラスト	京橋トラストタワー
	近畿地方整備局	京都国立博物館平常展示館
	大阪ハートケアパートナーズ	大阪府立精神医療センター再編整備事業
土木	宮城県	災害廃棄物処理業務
	西日本高速道路	東九州自動車道 泉工事
	関東地方整備局	中部横断醍醐山トンネルその2
	西日本高速道路	東九州自動車道 延永工事

1-2. 決算詳細説明

【連結】グループの状況

事業		国内子会社	海外子会社	14社
建設	建築	(株)アペックエンジニアリング 千代田建工(株)	ブラジル戸田建設(株) 戸田建設工程(上海)有限公司 タイ戸田建設(株) ベトナム戸田建設(有) 戸田フィリピン(株) ABTD(株)	8社
	土木	戸田道路(株)		1社
不動産		戸田ビルパートナーズ(株)	アメリカ戸田建設(株)	2社
その他		戸田ファイナンス(株) 千代田スタッフサービス(株) 東和観光開発(株)		3社

【連結】グループ業績概況

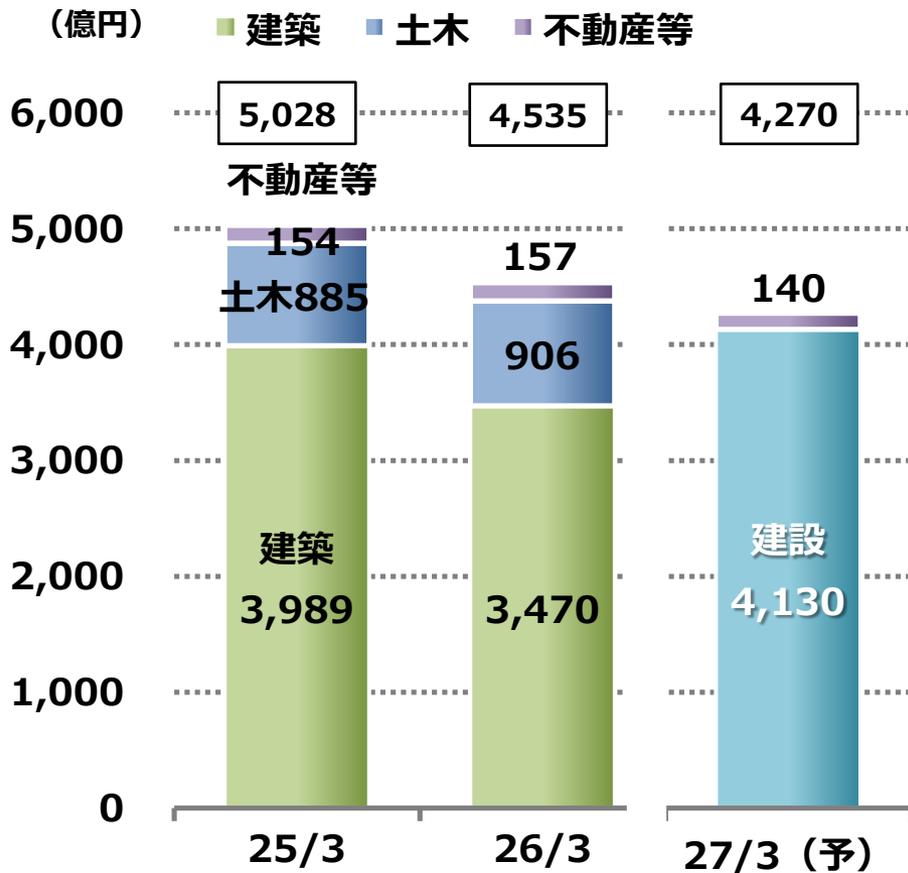
26/3 単位：億円	戸田建設		子会社計		連結		連単 倍率
		%		%		%	
売上高	4,095		579		4,489		1.10
売上総利益	230	5.6	28	5.0	254	5.7	1.11
一般管理費	183		27		206		
営業利益	46	1.1	1	0.3	47	1.1	1.02
営業外収支	15		1		18		
経常利益	62	1.5	2	0.5	65	1.5	1.05
特別損益	30		13		44		
税引前当期純利益	92		16		110		
法人税等	0		4		8		
当期純利益	92	2.3	11	2.0	102	2.3	1.11

【連結】連結損益計算書

単位：億円	25/3 (実績)		26/3 (実績)		増減率 %	27/3 (予測)	
		%		%			%
売上高	4,970		4,489		▲9.7	4,270	
売上総利益	▲246	▲5.0	254	5.7	—	264	6.2
一般管理費	223		206			225	
営業利益	▲469	▲9.5	47	1.1	—	39	0.9
営業外収支	14		18			14	
経常利益	▲455	▲9.2	65	1.5	—	53	1.2
特別損益	▲22		44			0	
税引前当期純利益	▲478		110			53	
法人税等	174		8			6	
当期純利益	▲652	▲13.1	102	2.3	—	47	1.1

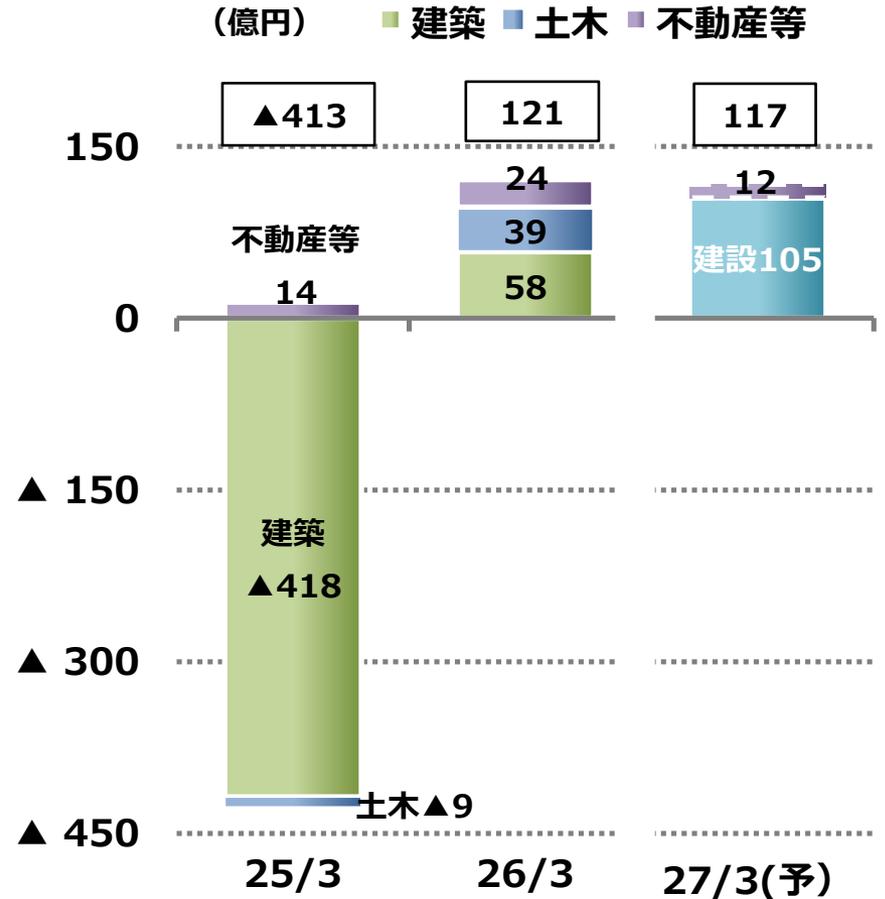
【連結】セグメント別 売上高・利益

売上高



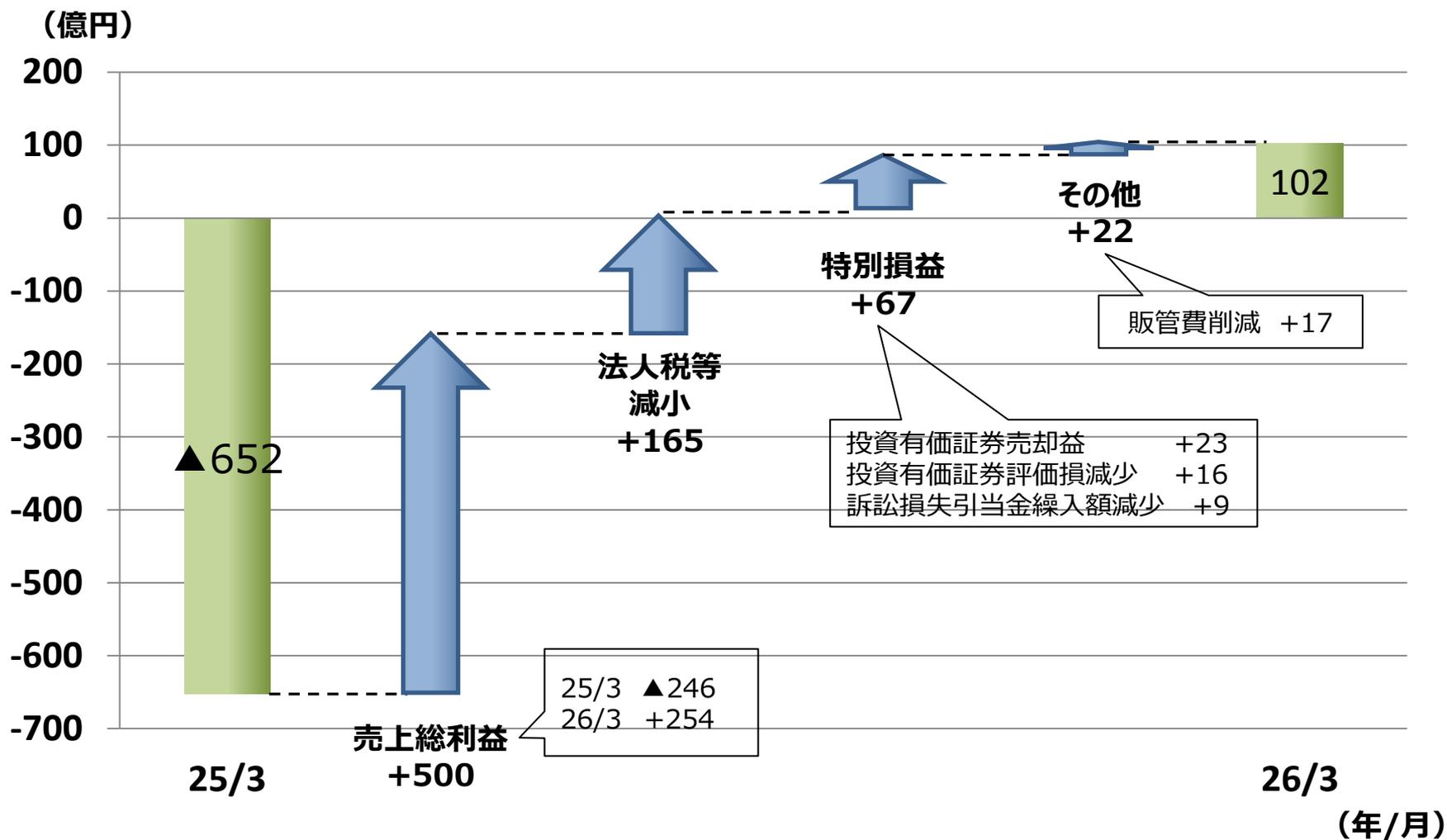
※セグメント別売上高には、セグメント間取引を含んでおります。

利益

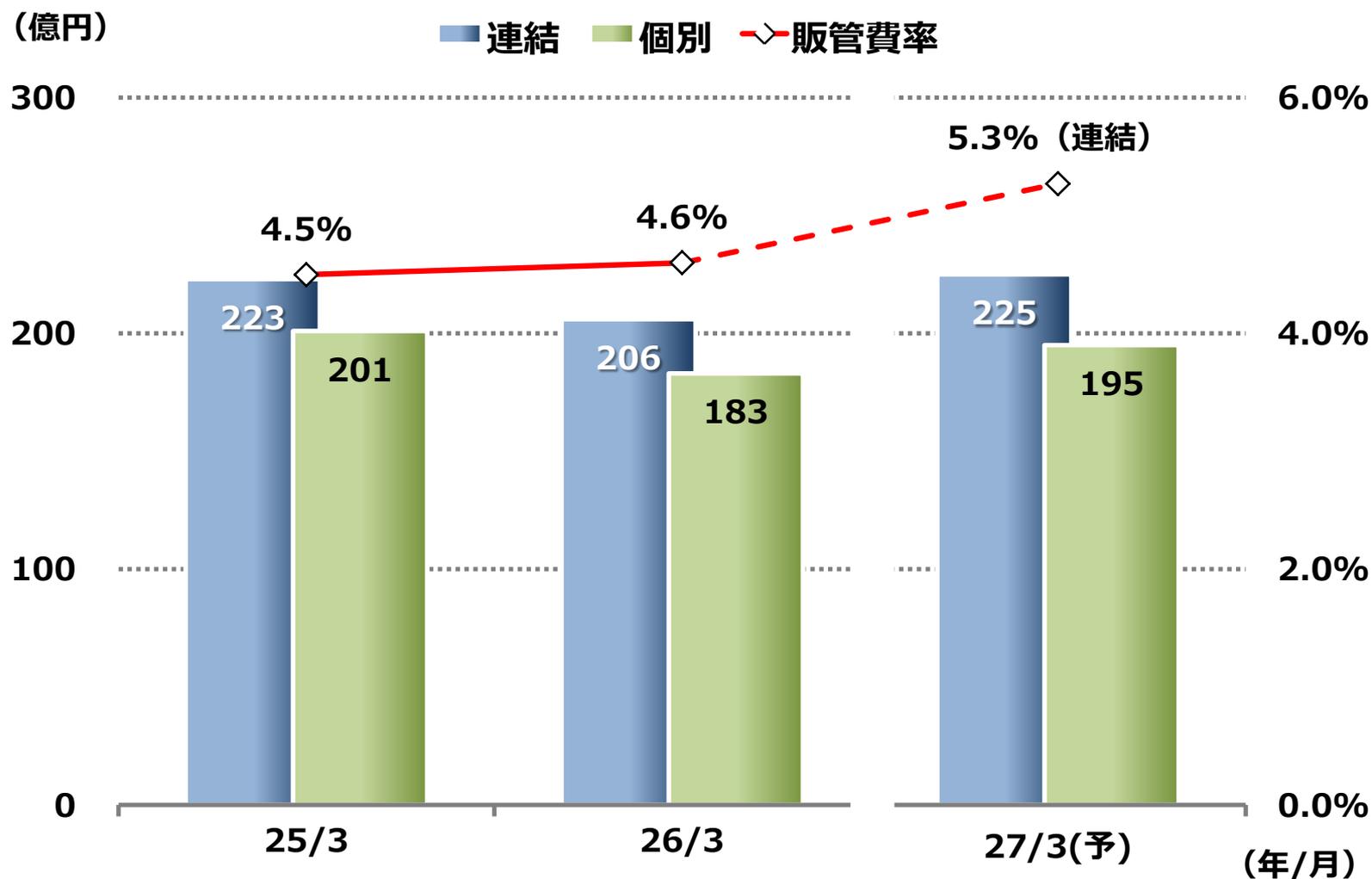


※セグメント別利益には、全社費用等が含まれておりません。

【連結】当期純利益の増加内訳

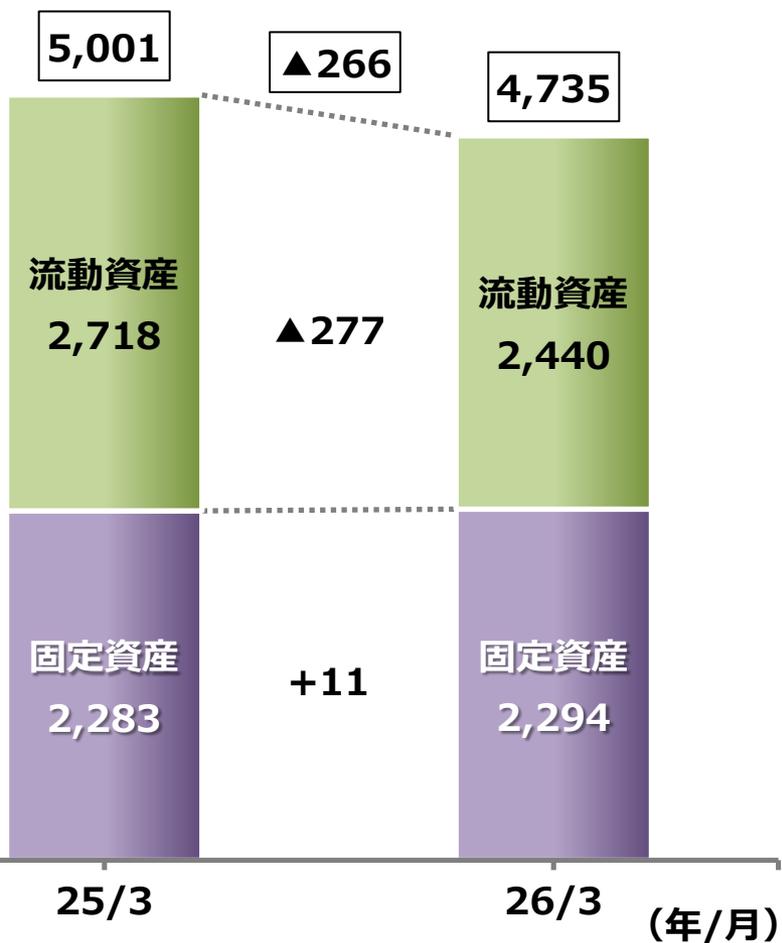


【連結】販管費の推移

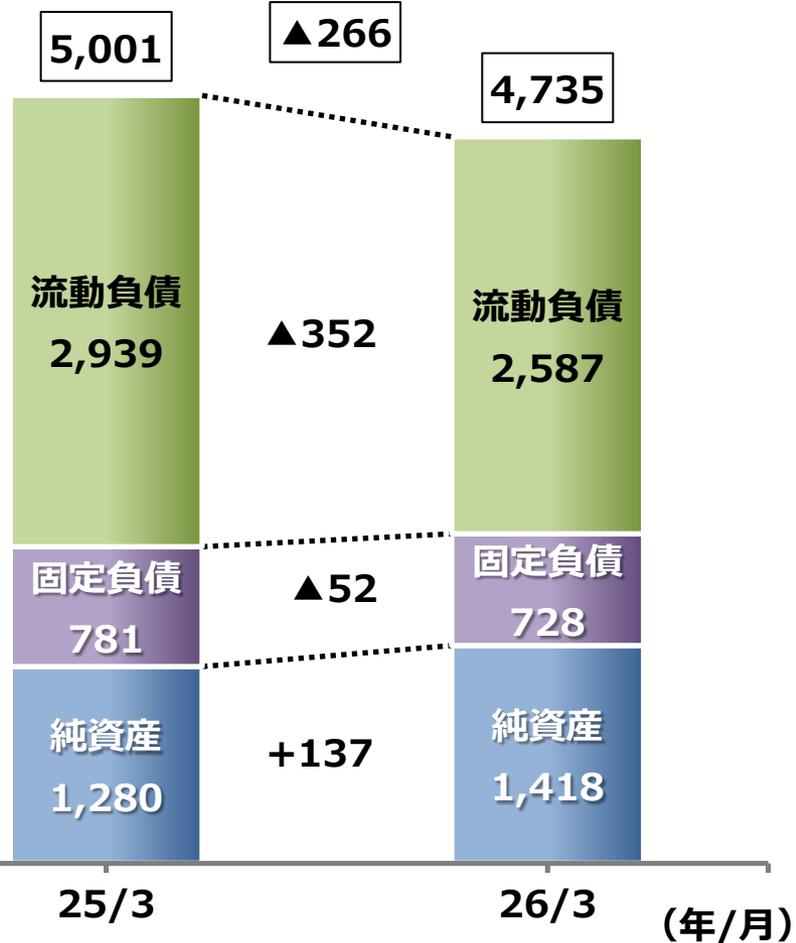


【連結】連結貸借対照表

資産の部 (億円)

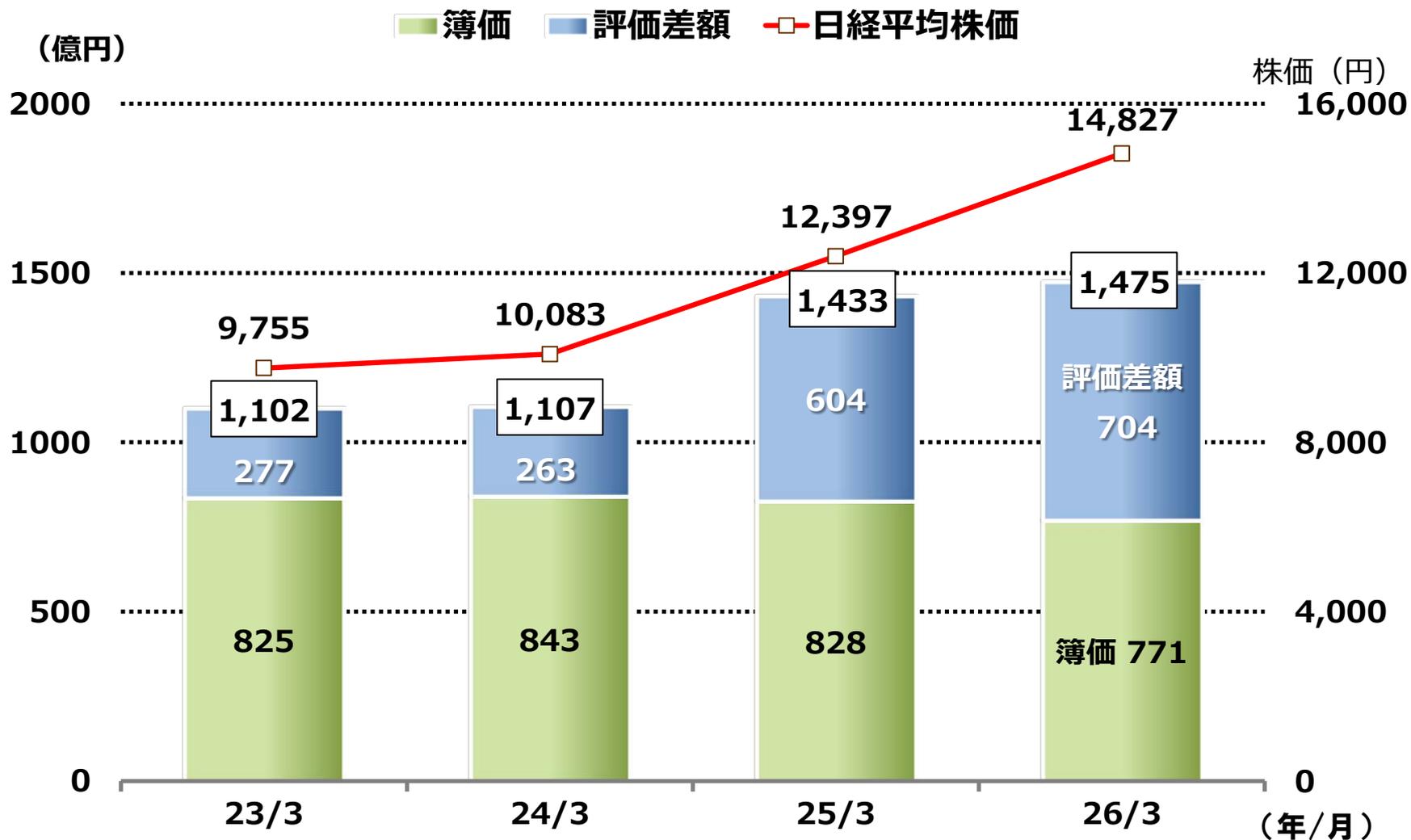


負債・純資産の部 (億円)

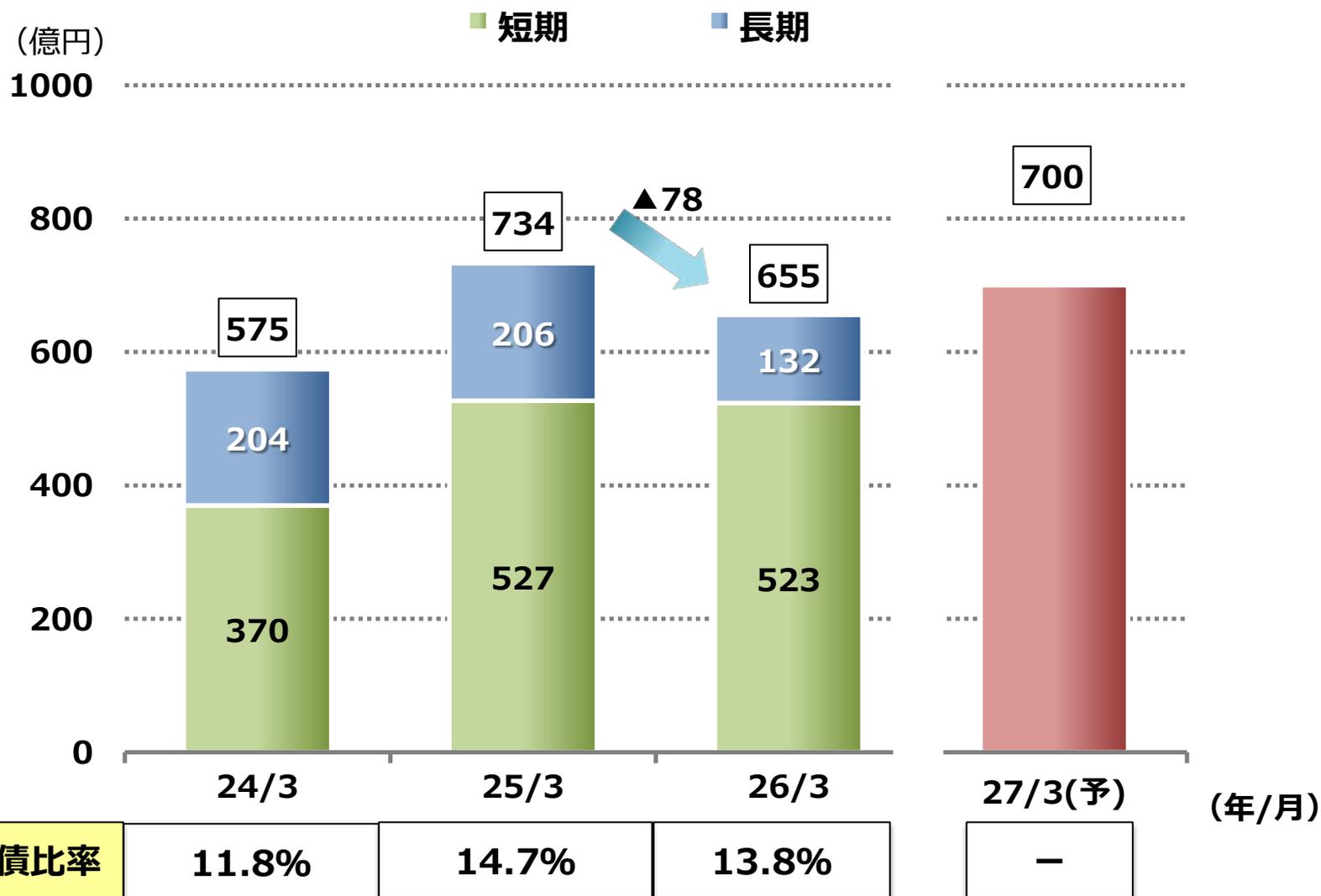


24.7%	自己資本比率	29.1%
-------	--------	-------

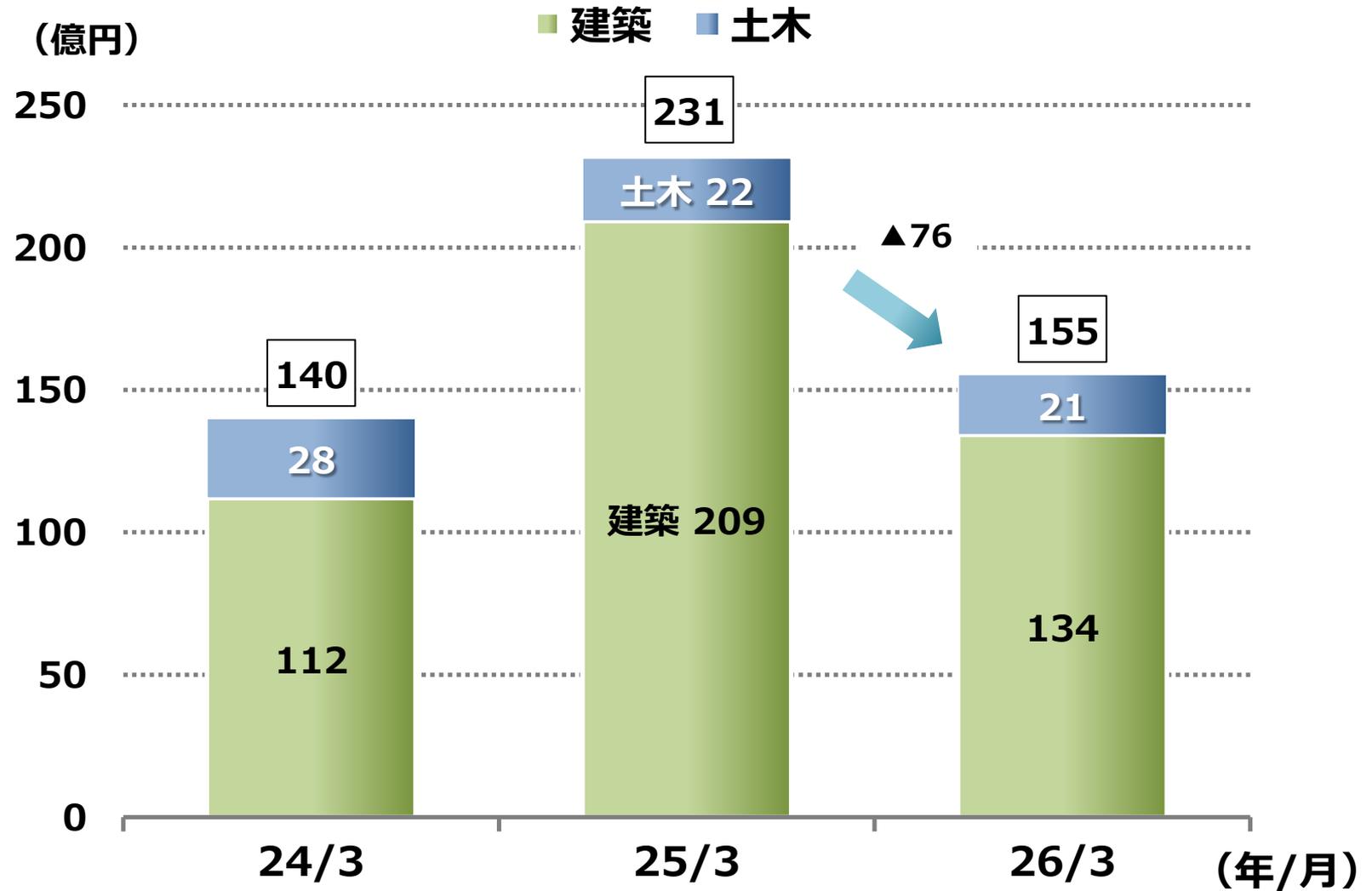
【連結】投資有価証券の推移



【連結】有利子負債の推移

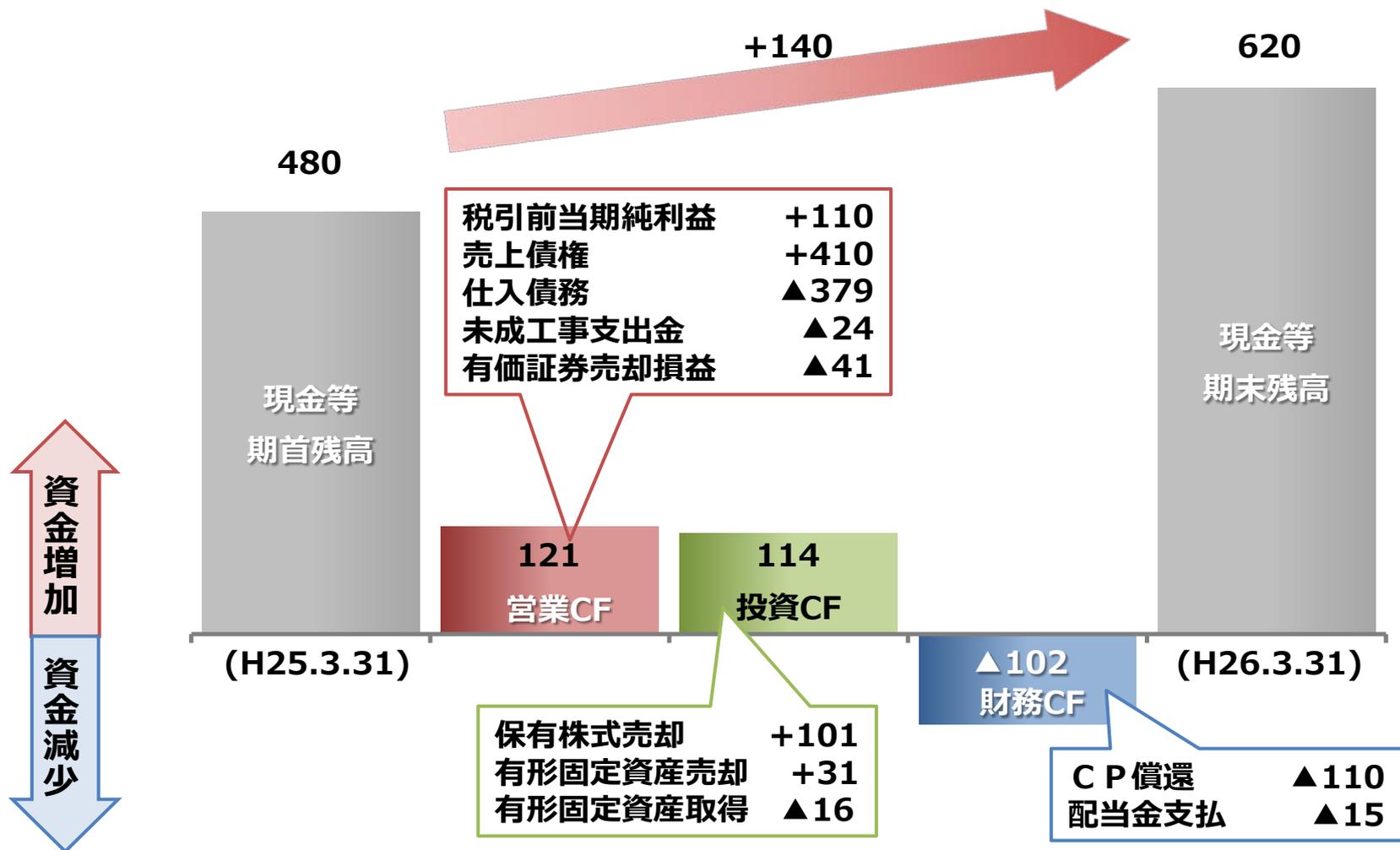


【連結】工事損失引当金の推移



【連結】キャッシュ・フロー

(単位：億円)



1-3. 業績予測



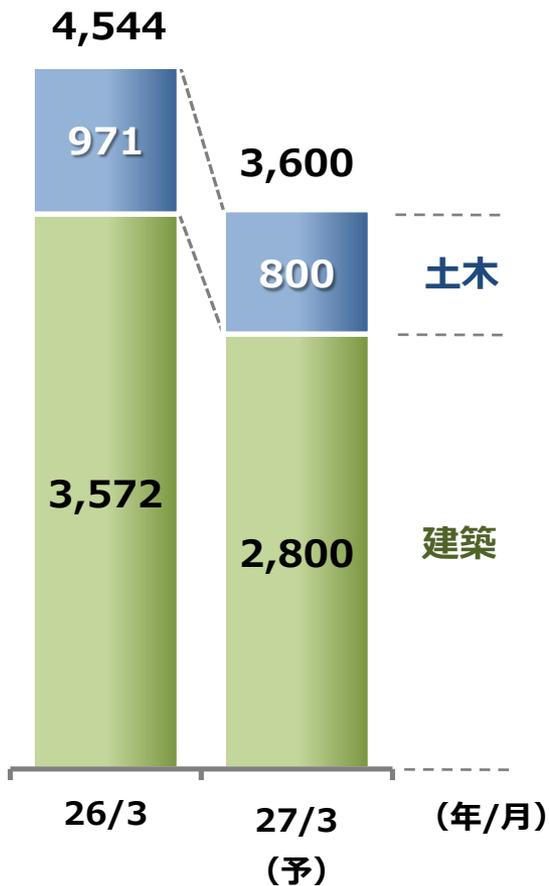
平成27年3月期 決算予測

単位：億円	26/3期	27/3期		
		予 測	前期との差	
連結売上高	4,489	4,270	▲4.9%	▲219
営業利益	47	39	▲18.5%	▲8
経常利益	65	53	▲19.5%	▲12
当期純利益	102	47	▲54.1%	▲55
建設受注高（個別）	4,544	3,600	▲20.8%	▲944

【個別】建設事業の業績予測

(単位：億円)

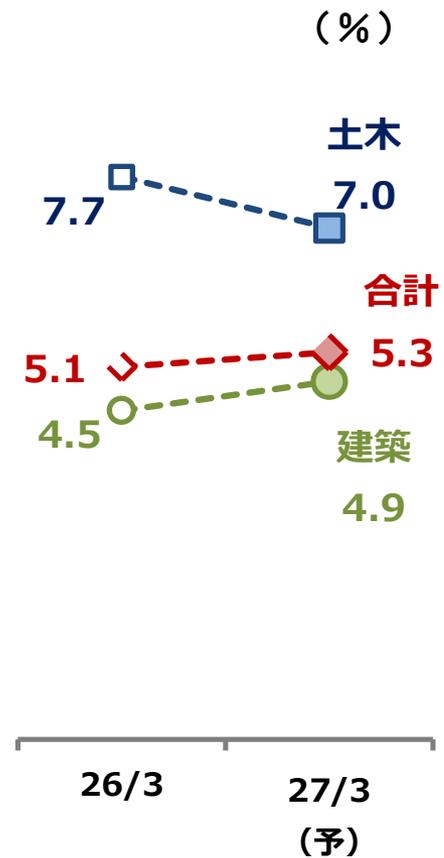
建設受注高



完成工事高



完成工事利益率



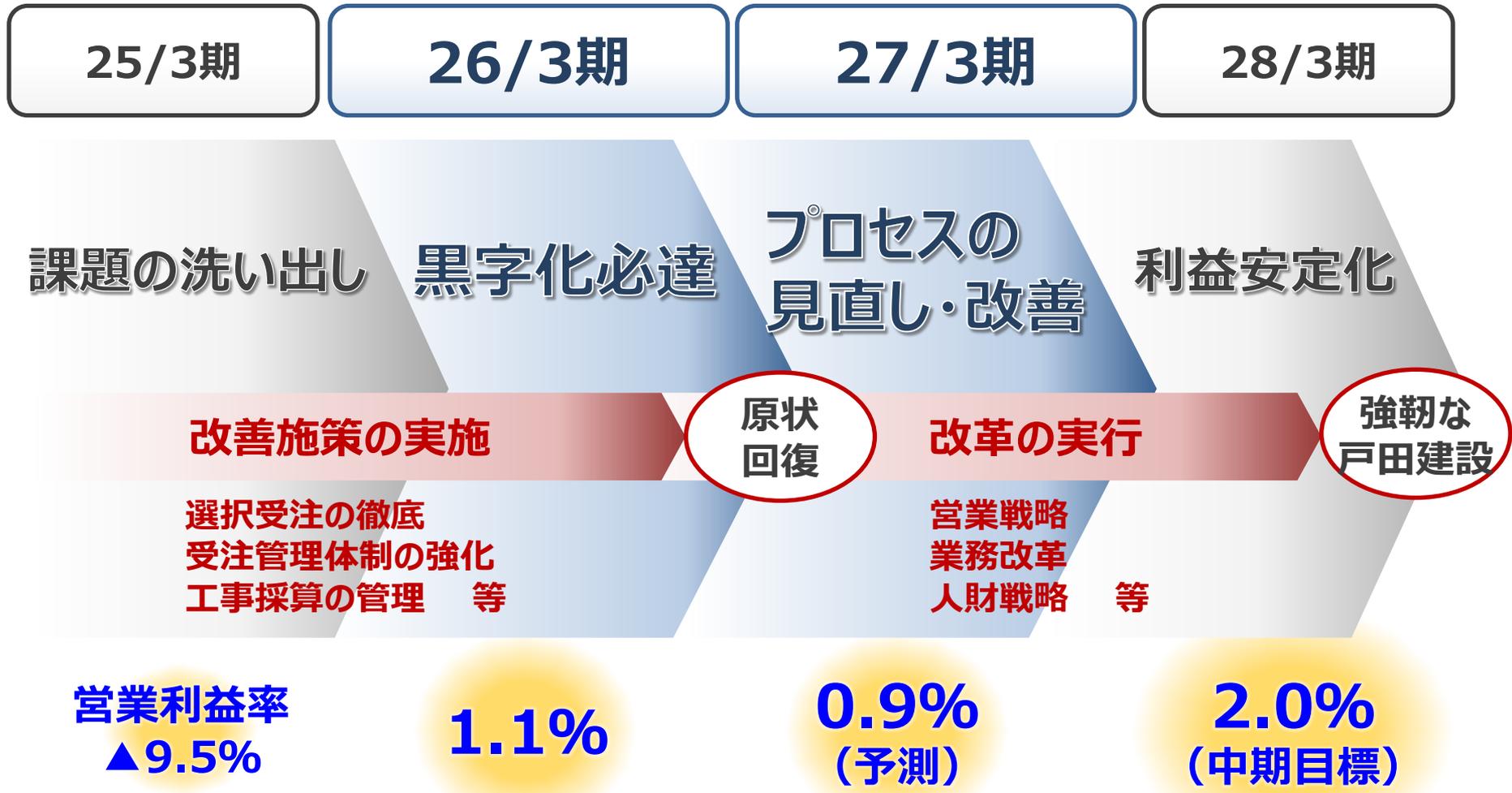
平成27年3月期 個別業績の予測

	金額 (億円)	利益率 (%)	
売上高	3,900		
売上総利益	225	5.8	
建設事業 利益	205	5.3	
(建築)	(145)	(4.9)	
(土木)	(60)	(7.0)	
不動産事業等 利益	20	30.8	
一般管理費	195		
営業利益	30	0.8	
経常利益	43	1.1	
特別損益	0		投資有価証券 売却益
当期純利益	42	1.1	

2. 経営の取り組み

代表取締役社長 今井 雅則

各期の位置付け



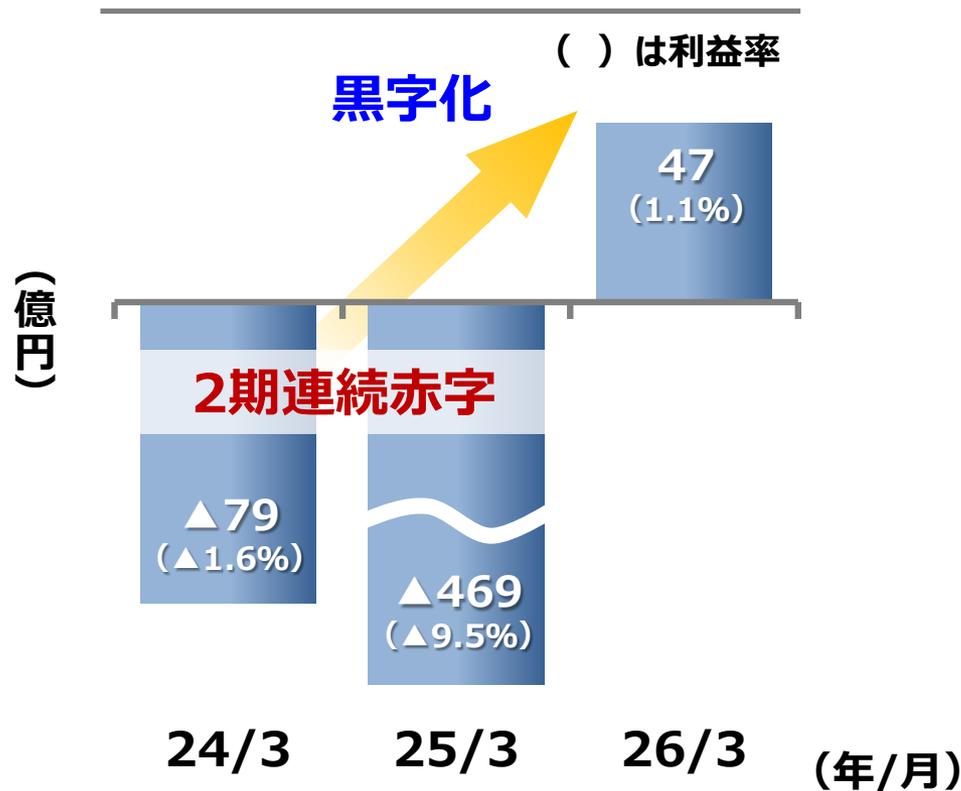
2-1. 成果と現状認識



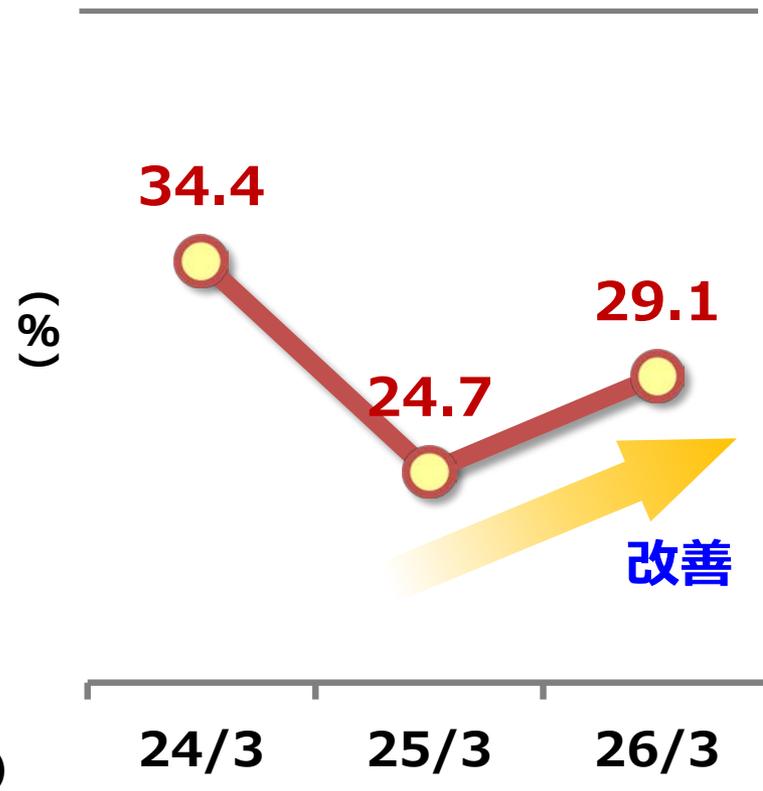
業績及び財務状況の改善

改善施策の徹底により営業黒字を確保

営業利益



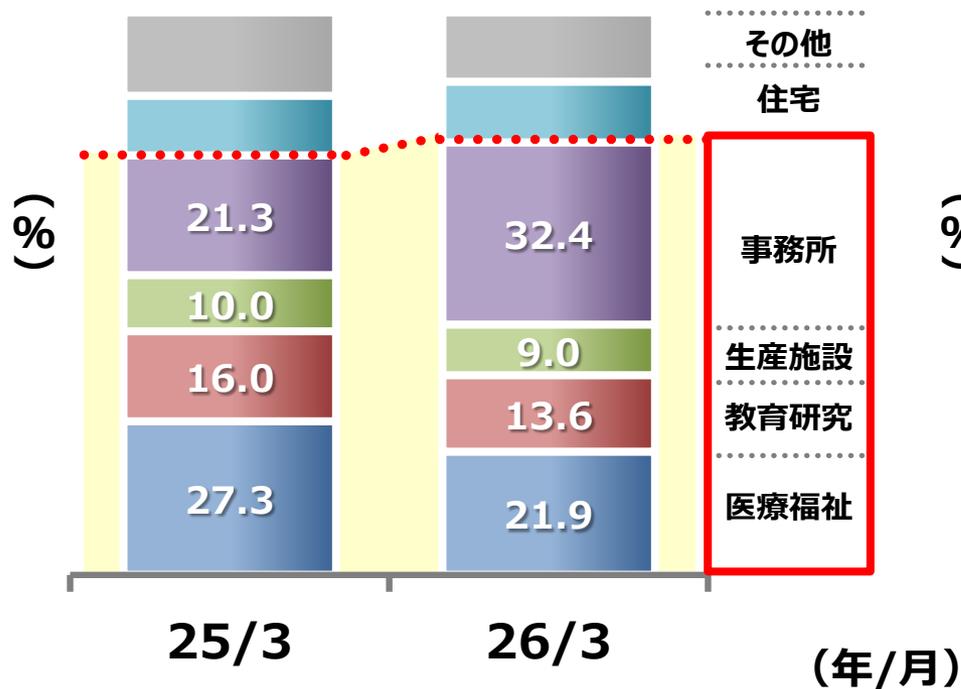
自己資本比率



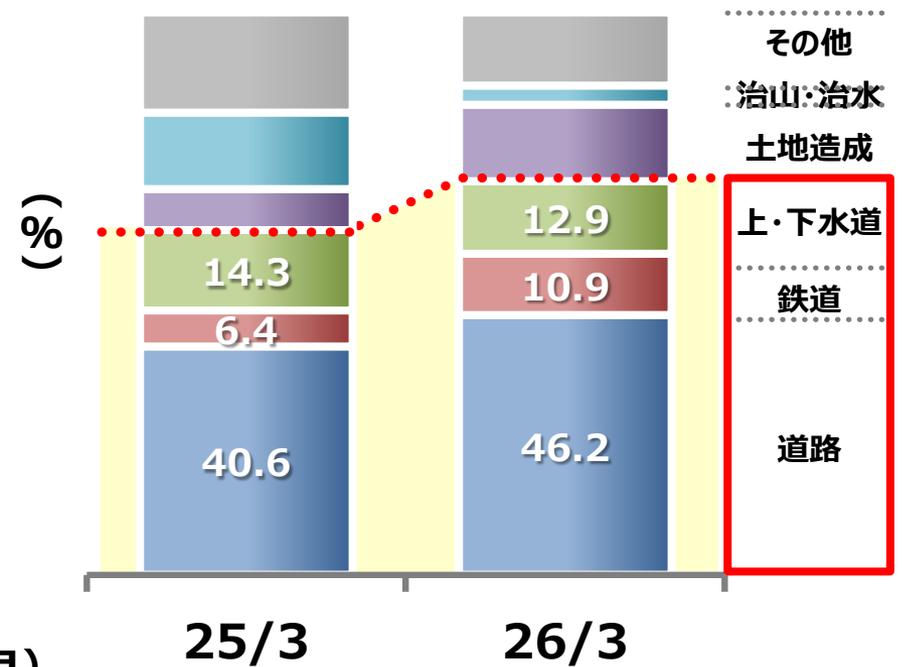
受注構成比率（個別）

医療福祉・事務所、道路で安定した受注を確保

建築（工事種類別）



土木（工事種類別）

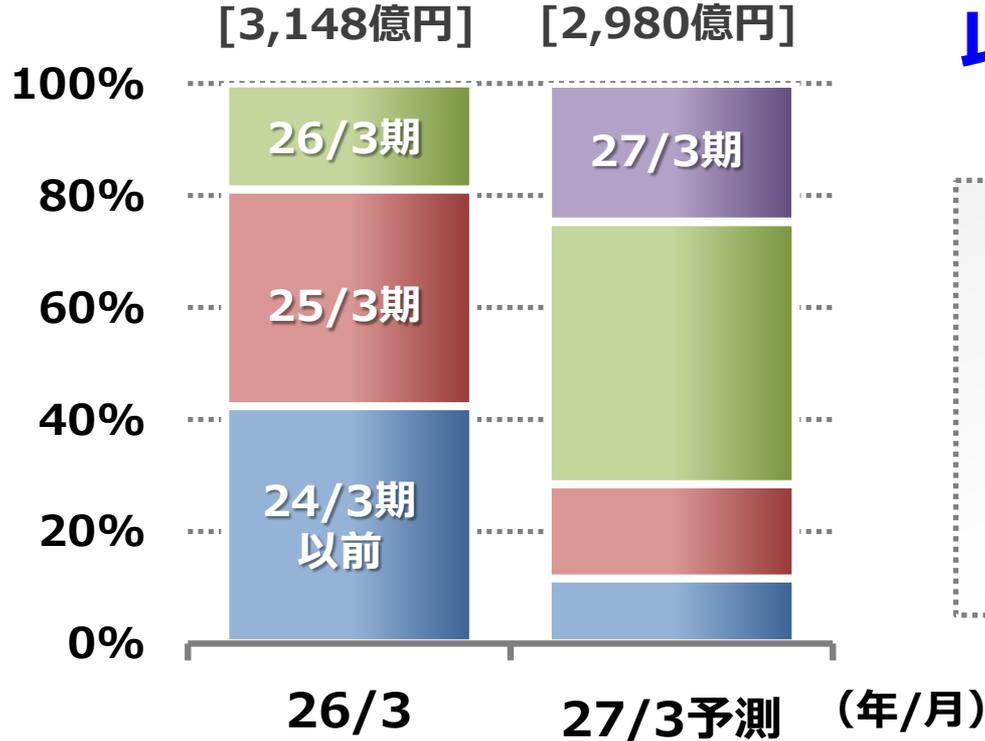


※ は重点分野

完工構成比率（個別・建築）

建築完工（受注期別）

[] は完成工事高



26/3期受注工事が 収益の主体に

大型・不採算が集中する24/3期以前の受注工事が減少。

26/3期受注工事については、選択受注等により、受注時利益率が改善。

本社機構改革（1/1、4/1付）の実施

方針の具現化に向けて4つの新組織を設置

※いずれも「統轄部・事業部」相当

【具現化に向けた仕組み】

【方針】

価値ある戸田建設
戦略分野の強化

環境・エネルギー 国際
投資開発 グループ会社

価値創造推進室

海外事業部

投資開発プロジェクト室

グループ統括室

アフターケア事業の再編

建設ライフサイクルにおける取り組みを強化

新築・増改築・RN

戸田建設

お客様センター、
ストックマネジメント部の新設

建物管理・RN

戸田ビルパートナーズ

千代田土地建物と
戸田リフォームの合併
※グループ会社の再編、強化

新たな価値創造

営業面におけるコラボレーション
情報基盤の共有化

前期の総括

収益力再生に向けて具体的活動に軸足を移す

前期（26/3期）の課題・成果

1. 黒字化に万全を期す。 黒字確保・財務改善

2. 収益力を再生する。 社内インフラ再構築
(機構改革・グループ会社再編等)

2-2. 今期の取り組み



目指す方向性：価値創造

企業価値の向上

(社会的責任・業績向上)

対顧客価値

利益ある受注

(選択受注・ソリューション)

生産性

業務の見直し

(プロセス・支援ツール)

人財価値

一人ひとりの能力向上

(人財育成・適材適所)

新組織の位置付け

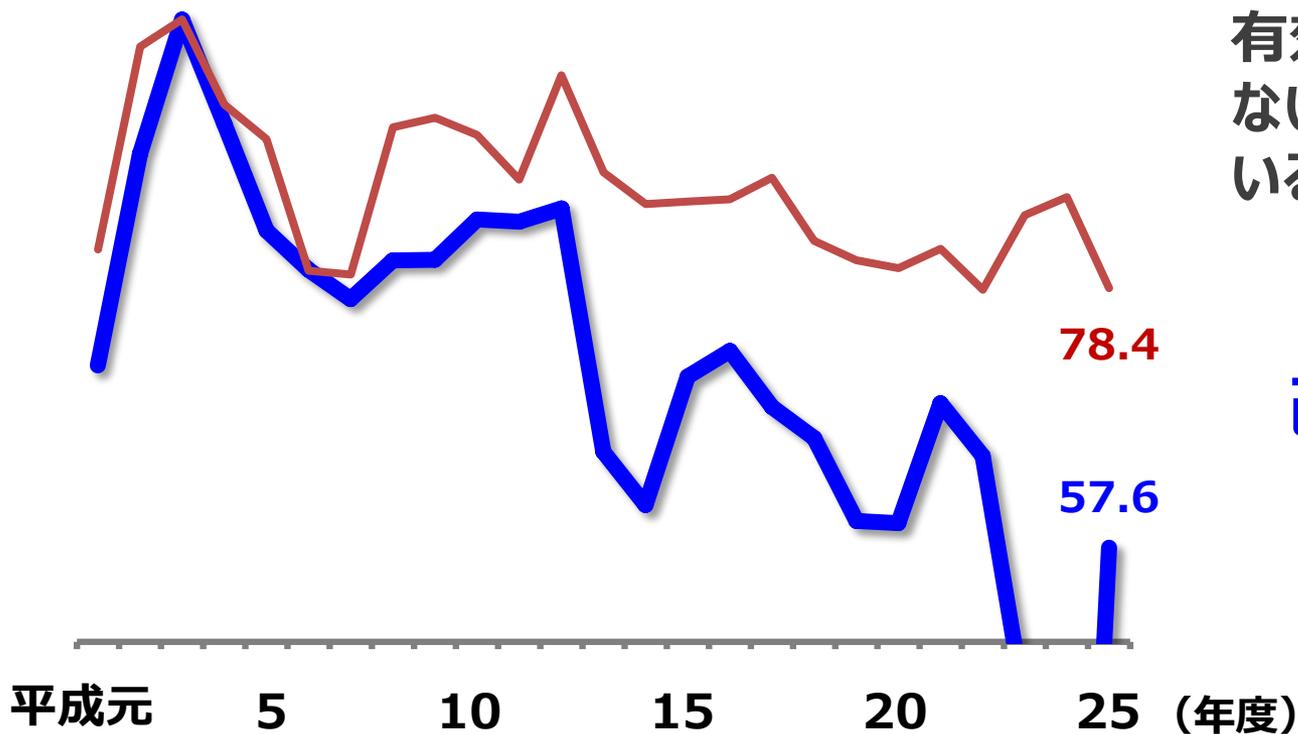
価値創造を具現化する責任・推進体制を確立

設置時期	対顧客価値	生産性	人財価値
H25.9月	お客様センター		
H26.1月	投資開発PJ室		
	価値創造推進室		
		グループ統括室	
3月	ストックマネジメント部	BIM-CM室	人財戦略室
	土木設計部	リスクマネジメント室	
4月	海外事業部		

生産性向上に向けて

従業員 1 人あたり指標 (個別・平成3年度 = 100)

- 1人あたり付加価値額 = 労働生産性
- 1人あたり売上高



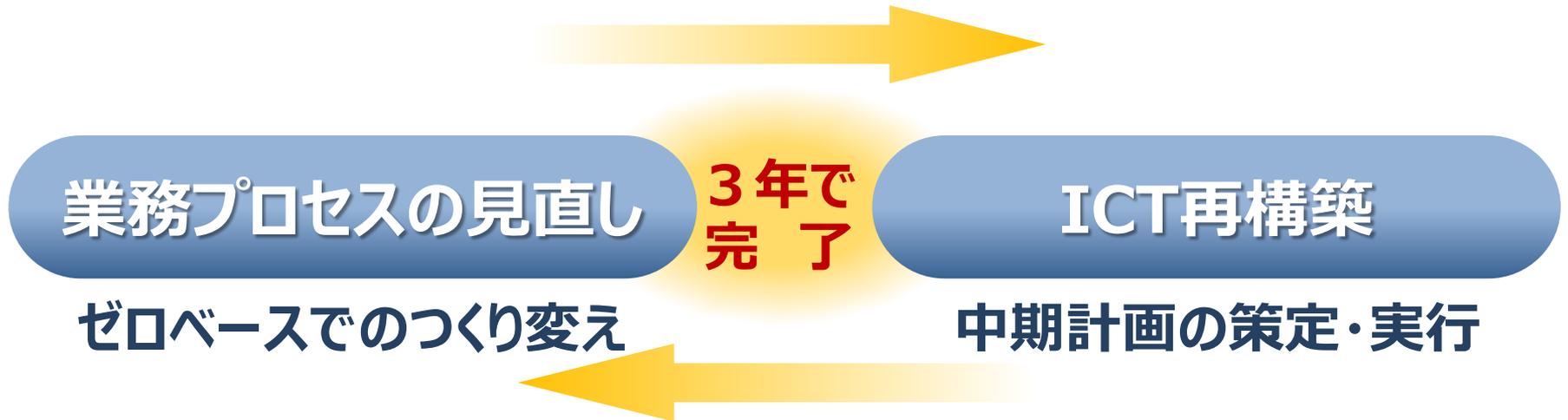
現場の繁忙が続く中で、有効な生産性向上策がないまま、現在に至っていると認識



改革の必要性

業務改革（BPR）の実施

業務プロセスを見直し、ICTによって更なる合理化



価値創造推進室を中心にプロジェクトを始動
(ICT戦略ユニット)

※ BPR : Business Process Re-engineering
ICT : Information and Communication Technology

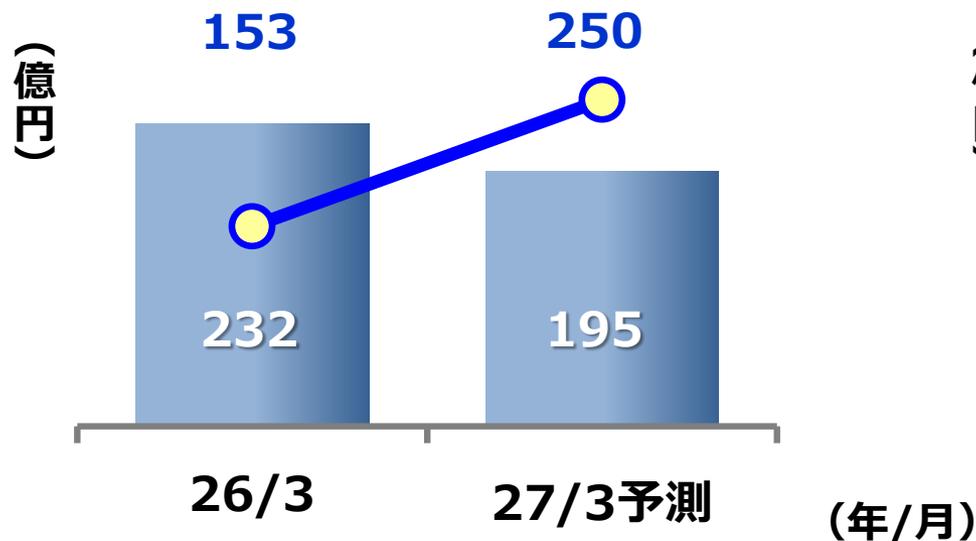
海外事業・不動産事業 業績予測

28/3期目標：売上高300億円

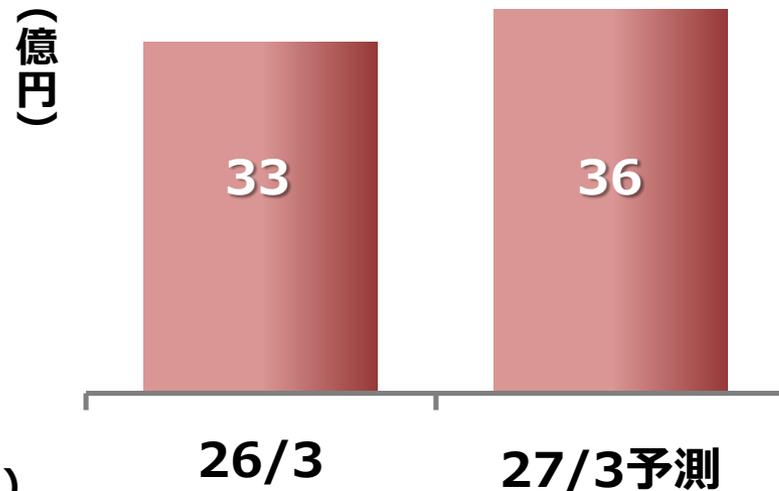
28/3期目標：粗利益40億円

海外建設売上高（連結）

折れ線は受注高



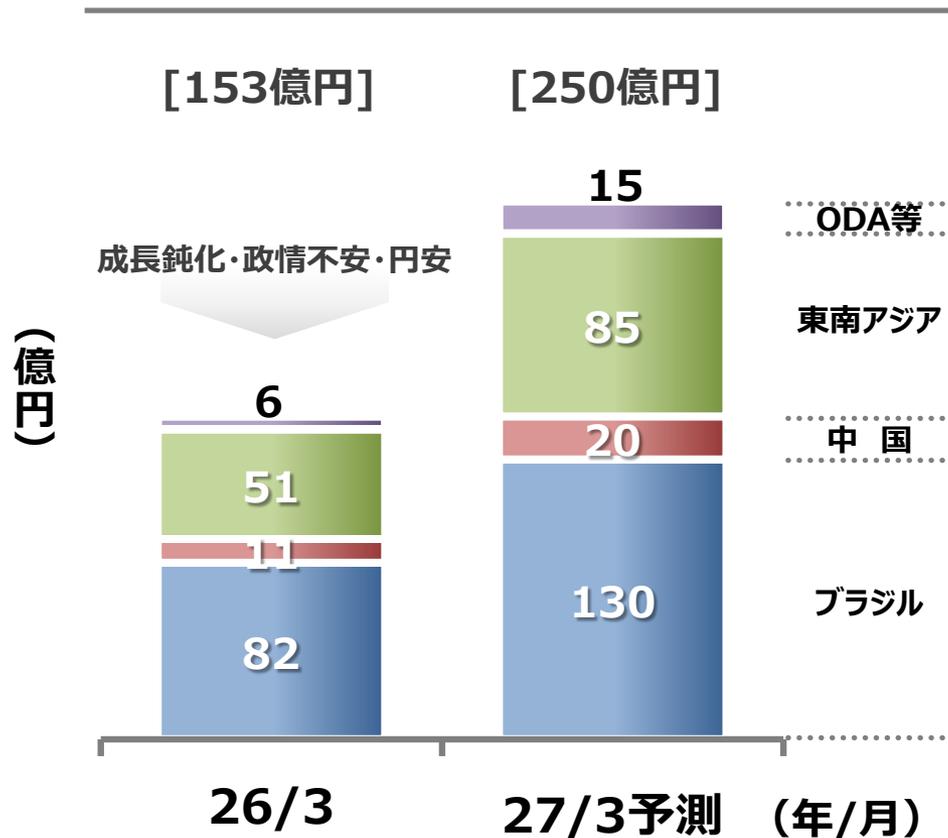
不動産等利益（連結）



※ 27/3予測レート：1US\$ = 103.0円

海外事業 地域戦略

海外建設受注高（地域別）



【ブラジル】

日系・非日系企業からの生産施設のほか、ローカルの病院・学校に注力

中期的には、M&A等を視野に、土木分野への進出を企図

【東南アジア】

日系企業進出に対する潜在ニーズの掘り起こしに注力

タイを基軸に、各地域及び現地法人の再評価を実施

環境への取り組み

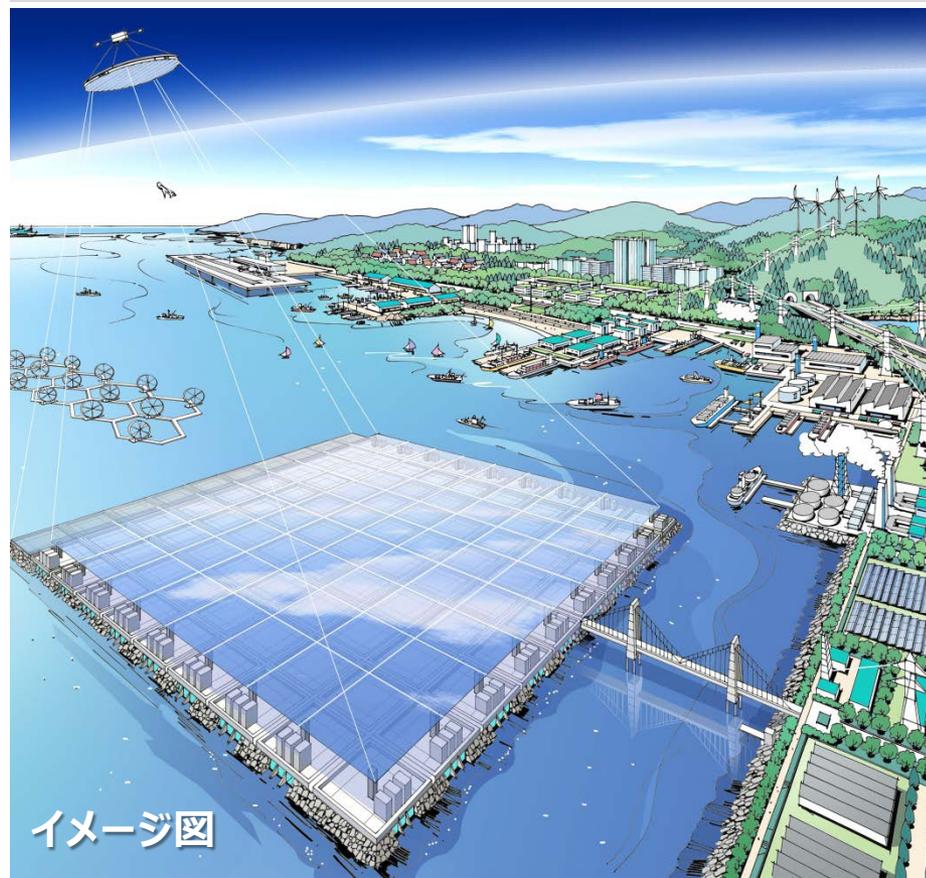
浮体式洋上風力発電



2MW実証機（長崎県五島市）

実用化に向けた実証事業を進行中

海洋インバースダム

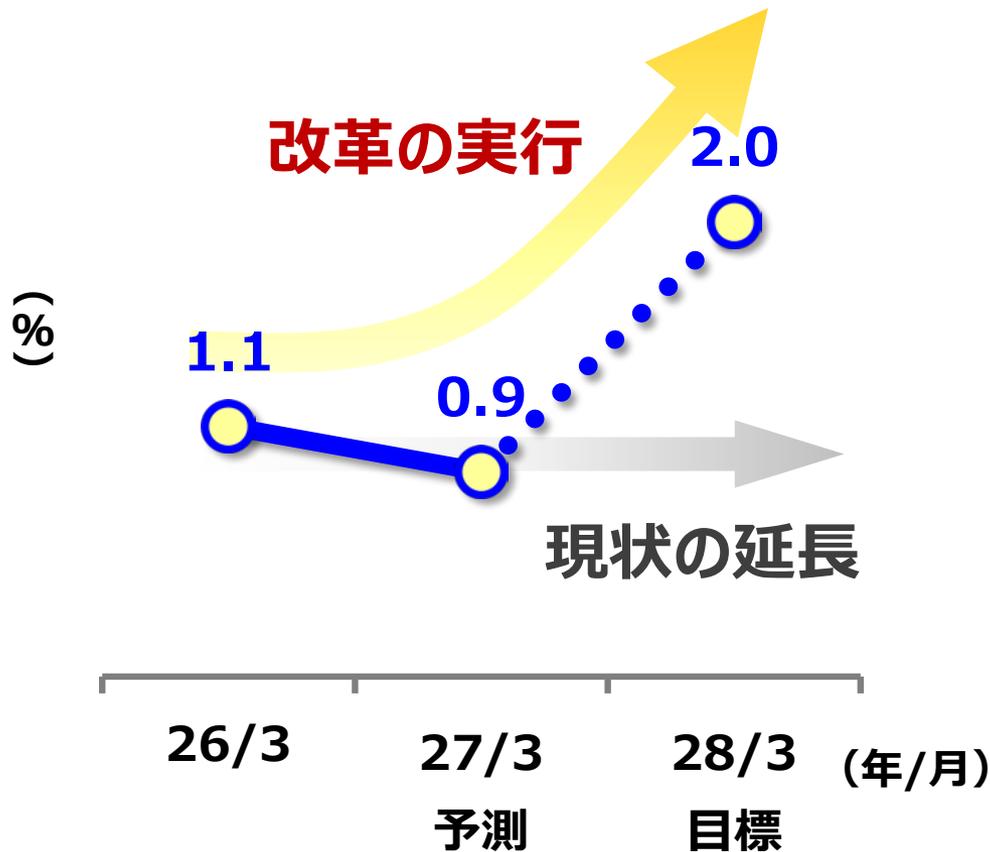


イメージ図

実現に向けたコンソーシアムを設立

業績目標

営業利益率



**改革を実行し、
目標達成を目指す**

構造改革・業務改革を実行し、
安定的に収益を上げる体質に
作り変えていく。

取締役会の機能強化

持続的成長に向けて強固なガバナンスを確立

社外取締役 2名の選任

人事委員会の設置

※ 取締役選任案は第91回定時株主総会に付議
人事委員会は株主総会後の取締役会にて委員選任（委員長：社外取締役）

人がつくる。人でつくる。

